

妙法蓮華經。妙音菩薩品。第二十四

爾の時に釋迦牟尼佛、大人相の肉髻の光明を放ち、及び眉間白毫相の光を放つて、徧く東方百八萬億那由他恒河沙等の諸佛の世界を照したもう。是の數を過ぎ已つて世界あり、淨光莊嚴と名く。其の國に佛います、淨華宿王智如來・應供・正徧知・明行足・善逝・世間解・無上士・調御丈夫・天人師・佛・世尊と號けたてまつる。無量無邊の菩薩大衆の恭敬し圍繞せるを爲て、爲に法を説きたもう。釋迦牟尼佛の白毫の光明、徧く其の國を照したもう。

爾の時に一切淨光莊嚴國の中に一りの菩薩あり、名を妙音という。久しく已に衆の徳本を植えて、無量百千萬億の諸佛を供養し親近したてまつりて、悉く甚深の智慧を成就し、妙幢相三昧・法華三昧・淨徳三昧・宿王戲三昧・無縁三昧・智印三昧・解一切衆生語言三昧・集一切功德三昧・清淨三昧・神通遊戯三昧・慧炬三昧・莊嚴王三昧・淨光三昧・淨藏三昧・不共三昧・日旋三昧を得、是の如き等の百千萬億恒河沙等の諸の大三昧を得たり。釋迦牟尼佛の光其の身を照したもう。

即ち淨華宿王智佛に白して言てく、

世尊、我當に娑婆世界に往詣して、釋迦牟尼佛を禮拜し親近し供養し、及び文殊師利法王子菩薩・藥王菩薩・勇施菩薩・宿王華菩薩・上行意菩薩・莊嚴王菩薩・藥上菩薩を見るべし。

爾の時に淨華宿王智佛、妙音菩薩に告げたまわく、

汝彼の國を輕しめて下劣の想を生ずることなかれ。善男子、彼の娑婆世界は高下不平にして、土石・諸山・穢惡充滿せり。佛身卑小にして、諸の菩薩衆も其の形亦小なり。而るに汝が身は四萬二千由旬、我が身は六百八十萬由旬な

り。汝が身は第一端正にして、百千萬の福あつて光明殊妙なり。是の故に汝往いて、彼の國を輕しめて若しは佛・菩薩及び國土に下劣の想を生ずることなかれ。

妙音菩薩、其の佛に白して言さく、

世尊、我今娑婆世界に詣らんこと、皆是れ如來の力・如來の神通遊戲・如來の功德智慧莊嚴ならん。

是に妙音菩薩、座を起たず身動搖せずして三昧に入り、三昧力を以て耆闍崛山に於て法座を去ること遠からずして、八萬四千の衆寶の蓮華を化作せり。閻浮檀金を莖とし、白銀を葉とし、金剛を鬚とし、甄叔迦寶を以て其の臺とせり。

爾の時に文殊師利法王子、是の蓮華を見て、佛に白して言さく、

世尊、是れ何の因縁あつてか先ず此の瑞を現ぜる。若干千萬の蓮華あつて、閻浮檀金を莖とし、白銀を葉とし、金剛を鬚とし、甄叔迦寶を以て其の臺とせり。

爾の時に釋迦牟尼佛、文殊師利に告げたまわく、

是れ妙音菩薩摩訶薩、淨華宿王智佛の國より、八萬四千の菩薩の圍繞せると、而も此の娑婆世界に來至して、我を供養し親近し禮拜せんと欲し、亦法華經を供養し聽きたてまつらんと欲せるなり。

文殊師利、佛に白して言さく、

世尊是の菩薩は何なる善本を種え何なる功德を修して、能く是の大神通力ある、何なる三昧を行ずる。願わくは我等が爲に是の三昧の名字を説きたまえ。我等亦之を勤め修行せんと欲す。此の三昧を行じて、乃ち能く是の菩薩の色相の大小、威儀・進止を見ん。唯願わくは世尊神通力を以て、彼の菩薩の來らんに我をして見ることを得せしめたまえ。

爾その時に釋迦牟尼佛しやくかむにぶつ、文殊師利もんじゆしりに告げたまわく、
此この久滅度くめつどの多寶如來たほうにょらい、當まさに汝等なんだちが爲ために而しかも其その相そうを現げんじたも
うべし。

時に多寶佛たほうぶつ、彼の菩薩ぼさつに告げたまわく、

善男子ぜんなんしきた來れ、文殊師利法王子もんじゆしりほうおうしなんじ汝みが身みを見みんと欲ほつす。

時に妙音菩薩みょうおんぼさつ、彼の國くにに於おいて歿もつして、八萬四千まんしよせんの菩薩ぼさつと俱とも共も

に發來はつらいす。所經しよきやうの諸國しよこく、六種しゆに震動しんどうして、皆みな悉ことごとく七寶ぼうの蓮華れんげ

を雨ふらし、百千ひやくせんの天樂鼓てんがくせざるに自おのら鳴なる。是この菩薩ぼさつの目めは

廣大かうだいの青蓮華しようれんげの葉はの如ごとし。正使たとい百千萬まんつきの月つきを和合わごうせりとも、其そ

の面貌めんみやう端正たんじやうなること復また此これに過すぎん。身みは眞金しんこんの色いろにして、

無量百千むりやうひやくせんの功德莊嚴くどくしやうげんせり。威德熾盛いとくしじやうにして光明照曜こうみやうしやうやうし、諸相しよそう

具足ぐそくして那羅延ならえんの堅固けんこの身みの如ごとし。七寶ぼうの臺うてなに入いつて虛空こくうに

上昇のぼり、地ぢを去さること七多羅樹たらじゆ、諸もろの菩薩衆ぼさつしゆくきやう恭敬がいぎやうし圍繞いにやうして、

此この娑婆世界しやばせかいの耆闍崛山ぎしゃくせんに來詣らいけいす。到いたり已おわつて七寶ぼうの臺うてなを下お

り、價直百千けぢきひやくせんの瓔珞やうらくを以もつて、持もつて釋迦牟尼佛しやくかむにぶつの所みもとに至いたり、

頭面ずめんに足みあしを禮らいし瓔珞やうらくを奉ぶじやう上じやうして、佛ほとけに白もつして言もつさく、

世尊せそん、淨華宿王智佛じようけしゆくおうちぶつ、世尊せそんを問訊もんじんしたもう、

少病しやうびやう少惱しやうのう起居輕利しきこきやうりにして安樂あんらくに行ぎやうじたもうや不いなや。四大だい

調和じやうわなりや不いなや。世事せじは忍しのびつべしや不いなや。衆生しゆじやうは度どし易やすしや

不いなや。貪欲とんよく・瞋恚しんに・愚癡ぐち・嫉妬しつと・慳慢けんまん多おほきことなしや不いなや。父母ぶも

に孝こうせず、沙門しゃもんを敬うやまわず、邪見不善じゃけんふぜんの心こころにして五情じやうを攝おさめざ

ることなしや不いなや。世尊せそん、衆生しゆじやうは能よく諸もろの魔怨まおんを降伏かうふくするや

不いなや。久滅度くめつどの多寶如來たほうにょらいは七寶塔ぼうとうの中なかに在ましまして、來きたつて法ほうを聽き

きたもうや不いなや。

又多寶如來またたほうにょらいを問訊もんじんしたたもう、

安穩あんのん少惱しやうのうにして堪忍かんにんし久住くじゆうしたもうや不いなや。世尊せそん、我今われいま

多寶佛たほうぶつの身みを見みたてまつらんと欲ほつす。唯願ただねがわくは世尊せそん、我われに示しめし

て見せしめたまえ。

爾の時に釋迦牟尼佛、多寶佛に語りたまわく、

是の妙音菩薩相見たてまつることを得んと欲す。

時に多寶佛、妙音に告げて言わく、

善哉善哉、汝能く釋迦牟尼佛を供養し、及び法華經を聽き、

并に文殊師利等を見んが爲の故に此に來至せり。

爾の時に華德菩薩、佛に白して言さく、

世尊、是の妙音菩薩は、何なる善根を種え何なる功德を修し

てか是の神力ある。

佛、華德菩薩に告げたまわく、

過去に佛いましき、雲雷音王・多陀阿伽度・阿羅訶・三藐三

佛陀と名けたてまつる。國を現一切世間と名け、劫を熹見と名

く。妙音菩薩、萬二千歳に於て、十萬種の伎樂を以て雲雷音王

佛に供養し、并に八萬四千の七寶の鉢を奉上す。是の因縁の

果報を以て、今淨華宿王智佛の國に生じて是の神力あり。

華德、汝が意に於て云何、爾の時の雲雷音王佛の所に、妙音

菩薩として伎樂をもつて供養し寶器を奉上せし者、豈に異人なら

んや、今此の妙音菩薩摩訶薩是れなり。華德、是の妙音菩薩は

已に會て無量の諸佛に供養し親近して、久しく徳本を植え、又

恒河沙等の百千萬億那由他の佛に値いたてまつる。華德、汝但

妙音菩薩其の身此に在りとのみ見る。而も是の菩薩は種種の身

を現じて、處處に諸の衆生の爲に是の經典を説く。

或は梵王の身を現じ、或は帝釋の身を現じ、或は自在天の

身を現じ、或は大自在天の身を現じ、或は天大將軍の身を現

じ、或は毗沙門天王の身を現じ、或は轉輪聖王の身を現じ、

或は諸の小王の身を現じ、或は長者の身を現じ、或は

居士の身を現じ、或は宰官の身を現じ、或は婆羅門の身を現

じ、或は比丘・比丘尼・優婆塞・優婆夷の身を現じ、或は
 長者・居士の婦女の身を現じ、或は宰官の婦女の身を現じ、
 或は婆羅門の婦女の身を現じ、或は童男・童女の身を現じ、
 或は天・龍・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・
 摩睺羅伽・人・非人等の身を現じて是の經を説く。諸有の
 地獄・餓鬼・畜生及び衆の難處、皆能く救濟す。乃至王の
 後宮に於ては、變じて女身となつて是の經を説く。華徳、是
 の妙音菩薩は能く娑婆世界の諸の衆生を救護する者なり。
 是の妙音菩薩は是の如く種種に變化し身を現じて、此の
 娑婆國土に在つて諸の衆生の爲に是の經典を説く。神通・
 變化・智慧に於て損滅する所なし。是の菩薩は若干の智慧を
 以て明かに娑婆世界を照して、一切衆生をして各所知を得
 せしむ。十方恒河沙の世界の中に於ても亦復是の如し。
 若し聲聞の形を以て得度すべき者には、聲聞の形を現じ
 て爲に法を説き、辟支佛の形を以て得度すべき者には、
 辟支佛の形を現じて爲に法を説き、菩薩の形を以て得度すべ
 き者には、菩薩の形を現じて爲に法を説き、佛の形を以て
 得度すべき者には、即ち佛の形を現じて爲に法を説く。是
 の如く種種に度すべき所の者に隨つて爲に形を現ず。乃至
 滅度を以て得度すべき者には滅度を示現す。華徳、妙音菩薩
 摩訶薩は大神通・智慧の力を成就せること、其の事是の如
 し。

爾の時に華徳菩薩、佛に白して言さく、

世尊、是の妙音菩薩は深く善根を種えたり。世尊、是の
 菩薩何なる三昧に住して、能く是の如く在所に變現して衆生
 を度脱する。

佛、華徳菩薩に告げたまわく、

善男子、其の三昧を現一切色身と名く。妙音菩薩是の三昧の中に住して、能く是の如く無量の衆生を饒益す。

是の妙音菩薩品を説きたもう時、妙音菩薩と俱に来れる者八萬四千人、皆現一切色身三昧を得、此の娑婆世界の無量の菩薩、亦是の三昧及び陀羅尼を得たり。

爾の時に妙音菩薩摩訶薩、釋迦牟尼佛及び多寶佛塔を供養し已つて、本土に還歸す。所經の諸國六種に震動して、寶蓮華を雨らし、百千萬億の種種の伎樂を作す。既に本國に到つて、八萬四千の菩薩の圍繞せると、淨華宿王智佛の所に至つて、佛に白して言さく、

世尊、我娑婆世界に到つて衆生を饒益し、釋迦牟尼佛を見たてまつり、及び多寶佛塔を見たてまつりて禮拜供養し、又文殊師利法王子菩薩を見、及び藥王菩薩・得勤精進力菩薩・勇施菩薩等を見る。亦是の八萬四千の菩薩をして現一切色身三昧を得せしむ。

是の妙音菩薩來往品を説きたもう時、四萬二千の天子、無生法忍を得、華德菩薩、法華三昧を得たり。

妙法蓮華經卷第七